

◆探訪◆ ヤマタノオロチ 伝説地

島根県には、ヤマタノオロチ伝説にまつわる場所がたくさんあります。ここでは、とくに伝説の多く集まっている斐伊川流域の伝説の地をご紹介します。

斐伊川流域を訪ねる



いなぎ 稲城
簸川郡斐伊町出西にある森。スサノオの命が大蛇退治の本拠地とした所だといふ。大蛇は出西の対岸、出雲市側からよくやって来たからだといふ。

みずこしとうげ 水越峠
大原郡加茂町大竹と簸川郡斐伊町宇屋谷の境にある峠。スサノオの命に追い立てられた大蛇が、苦しんで草枕の地に横たわったので斐伊川の水がせき止められ、水位がどんどん上がって、とうとうこの峠を越したといわれる。



はちほんすぎ 八本杉
大原郡木次町里方の斐伊神社の西方100mのところにある杉。スサノオの命が大蛇を退治してその頭を埋め、印として八株の杉の木を植えた跡であるといふ。

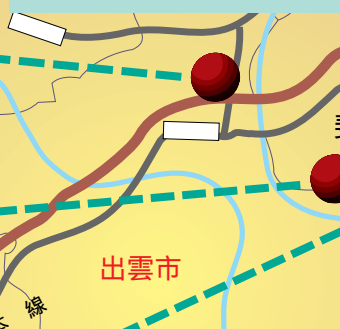
須佐神社
簸川郡佐田町東須佐にあるスサノオの命の本宮とされている神社。ここに大蛇の骨といわれる化石状のものが残されている。



石塚明神
出雲市大津町の雲根神社は、もとは石塚明神と言った。むかし退治された大蛇の頭がここへ流れ着いたので、村人が哀れんでこれを祀り、石で塚を作った。ところが塚から夜な夜な怪火が出て、安心して眠れない。そこでスサノオの命の神霊を勧請したところ、ぴたりと止まったといふ。



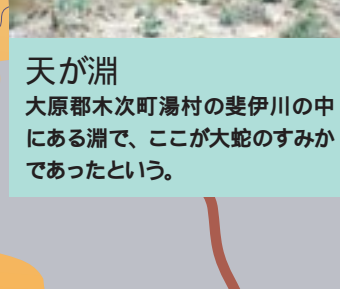
つのもり 角森大明神
松江市大野町下分の大野津神社は、もとは角森大明神と言った。長さ5・6寸(15~18cm)太さ1尺(30cm)の大蛇の骨と言われるものが、12~13体あると伝えられている。



毒酒を作った釜石
大原郡木次町寺領に、室山という山がある。この麓に高さ2mくらいの大岩が2つ立っている。これを釜石と言ひ、大蛇退治のための毒酒を作った釜の跡であるといふ。



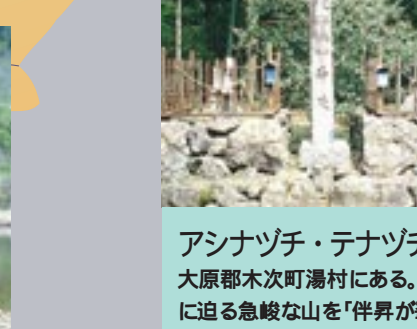
天が淵
大原郡木次町湯村の斐伊川の中にある淵で、ここが大蛇のすみかであったといふ。



くさまくらやま 草枕山
大原郡加茂町神原にある、枕のような形の山がある。毒酒を飲んだ大蛇が苦しんで枕にして寝た山であるといふ。



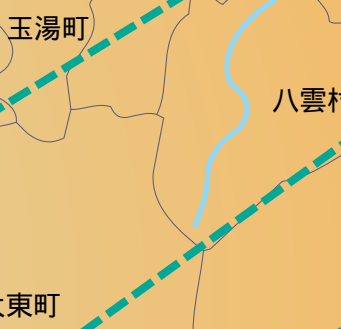
アシナツチ・テナツチの陵
大原郡木次町湯村にある。天が淵に迫る急峻な山を「伴昇が峯」と言うが、アシナツチ・テナツチは姫を連れてこのふもとに住み、大蛇が来ると山の上に駆け登った。現在ふもとには荒神が祀ってあるが、ここが屋敷跡、山の上の二つの大岩が陵であるといふ。



アシナツチ・テナツチの屋敷跡
仁多郡仁多町佐白に、長者屋敷という地名がある。ここにアシナツチ・テナツチが住んでいたといふ。この一画には小竹が密生しているが、これを立身竹と言ひ、アシナツチ・テナツチが植えたものだといふ。



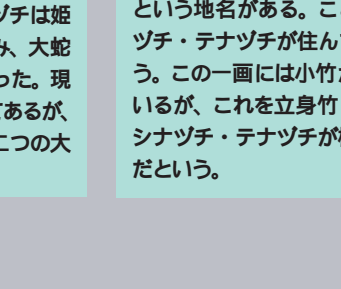
くさまくらやま 草枕山
大原郡加茂町神原にある、枕のような形の山がある。毒酒を飲んだ大蛇が苦しんで枕にして寝た山であるといふ。



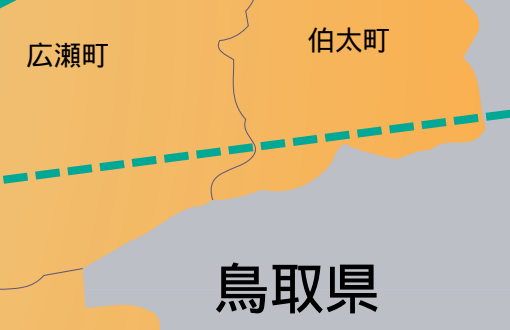
クシナダヒメ誕生地
仁多郡横田町稲原字稲田に稲田神社があり、ここが稲田姫、すなわちクシナダヒメの誕生地といわれる。産湯の池と称する小さな池がある。



鳥上の滝
仁多郡横田町船通山の八合目付近にある滝で、この滝こそ大蛇のすみかであったといふ。



やとざか 八頭坂
大原郡木次町寺領ある坂で、ここが大蛇が住んでいたといふ。



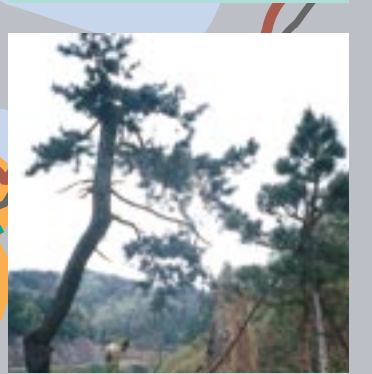
もとゆいかけ 元結掛の松
仁多郡仁多町佐白にある松。クシナダヒメが髪を結うとき、元結をこの松に掛けたといふ。



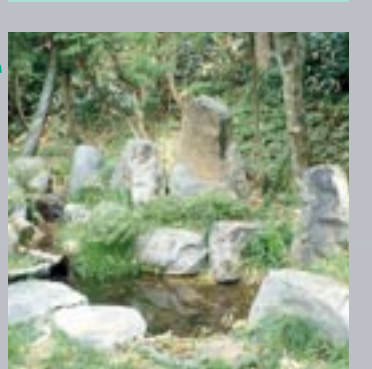
鏡ヶ池
仁多郡仁多町佐白にある池。クシナダヒメが髪をとかすとき、鏡に見立てたといふ。



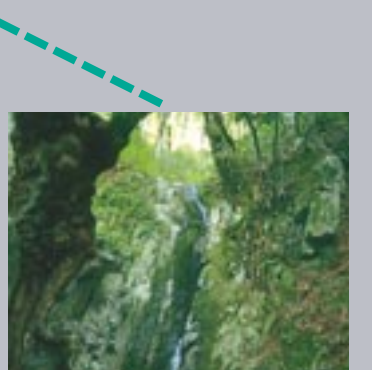
やとざか 八頭坂
大原郡木次町寺領ある坂で、ここが大蛇が住んでいたといふ。



もとゆいかけ 元結掛の松
仁多郡仁多町佐白にある松。クシナダヒメが髪を結うとき、元結をこの松に掛けたといふ。



鏡ヶ池
仁多郡仁多町佐白にある池。クシナダヒメが髪をとかすとき、鏡に見立てたといふ。



鳥上の滝
仁多郡横田町船通山の八合目付近にある滝で、この滝こそ大蛇のすみかであったといふ。

